

読売新聞 きょう（9月25日）のイチ押し

1面・社会面 わいせつ「教え子に」半数（本紙の全国調査）

2019年度までの5年間にわいせつ・セクハラ行為で懲戒処分を受けた公立小中高校などの教員が1030人に上り、約半数の496人が、自らが勤務する学校の児童生徒（卒業生を含む）を対象としていたことが読売新聞の全国調査でわかりました。1人の教員が複数の教え子にわいせつ行為を繰り返す例もあり、学級担任など自校教員から被害を受けた子どもは少なくとも945人に上ることも判明しました。

- ★ 全都道府県・政令市の計67教育委員会に調査、計1030人の教員が懲戒処分になっていました。
- ★ 被害を訴えても、証明できないとして、教員が懲戒処分されない事例も多く、「氷山の一角だ」との指摘も出ています。
- ★ 読売新聞は「許すな わいせつ教員」取材班を設けました。教員から被害を受けた方、お子さんが被害に遭ったという保護者の方からの情報をお待ちしています。

社会面 高松2女児死亡 母、3夜連続車内放置か

高松市内で女児2人が乗用車に約15時間放置されて死亡した事件で、母親（26）が、事件当日を含め3夜連続で姉妹を車内に残し、飲酒していたとみられることが、捜査関係者への取材でわかりました。

- ★ 高松地検は24日、母親を保護責任者遺棄致死罪で起訴しました。
- ★ 来年小学校に入学予定だった姉の真友理（まゆり）ちゃん。自宅からは「おかあさんだいすき」などと書いた折り紙が見つかりました。

他紙と比べて

社会面に載せた、スナネコの赤ちゃんの愛らしい写真。読売新聞オンラインでは、動画を見ることもできます。オンラインの動画コーナーは、読売新聞の自信作です。そのコーナーからお薦めの動画をもう一つ。南米ペルーの「ナスカ」以外に、巨大地上絵がたくさんある国があります。一体どこの国でしょう？